



発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

地域の宝を掘り起こす 夢仕事人 ひげの梶さん

「子供達の目を輝かせたい」

そのためには、まず大人達や地域がイキイキと輝かなくては・南千住在歴18年のひげの梶さんこと梶本晃司さん(62)

は公演イベントプロデューサー、演出脚本を手がけ、昨年10月には三越劇場で

「南水ひとり語り」樋口一葉の作品の演出を行いました。その合間に全国各地で年50回以上四十年近く歴史探歩会を開催しています。杖について参加された方が半年で杖無しで歩けるようになり、臨月まで参加された方のお子さんは小学1年になりました。また、会員は札幌から九州まで88歳〜小学1年まで全国で千三百人になります。

探歩会とはぶらぶら散歩するのではなく、歴史を見つめながらの探索活動です。また、東京、神奈川、千葉、埼玉などの歴史好きのメンバー約40人と連休などを利用して4年半がかりで滋賀県草津市から東京・日本橋までの中山道を距離は735キロ、総歩数は97万3千歩で踏破しました。七月には「利家とまつと歩こう!」「鎌倉を歩こう!」に続く7冊目の「江戸切絵図を歩こう!」を出版し、観光ガイドブックより詳しく、歴史の本

より優しく書かれています。

「地域起こしするには3人の狂人が必要」

地域起こしをするには「若者・ばか者・よそ者の力が必要と聞いたことがあります。梶本さんは青森・広島・石川・福井の地域おこしのプロデューサーもされています。世界文化遺産 安芸宮島観光大使や津軽 黒石市の観光大使にもなっております。



津軽 黒石市観光大使
梶本 晃司
事務所 黒石市物産観光課
〒036-0206 黒石市黒石北字北1丁目11-1

平成17年の第1回から石川県加賀市・小松市・白山市を舞台に「加賀白山おったからまつり」の立ち上げから総合プロデューサー・企画演出を手がけて、テレビ 新聞等で連日報道され、地域の人々の手で作り上げる祭りとして注目されました。

おったからは、「おった」と「だから」の意味を含めています。地震の影響や、折からの不況で石川県は後がありませんが、一丸となって観光客の呼び込みに必死です「全国子供歌舞伎フェスティバルIN小松」では小松市の子供達による「勧進帳」を上演致しました。

広島では平成七年より「厳島神社御創建千四百年大祭記念」として広島工業大学付属中学・高校の鑑賞行事及び一般公演として「上原まり平家物語の世界」を

プロデューサーして以来様々な企画による演出を行い、さらに各地の劇場・ホール
の舞台の他、国宝・重要文化財を舞台にした芸術祭・演奏会・ひとり芝居・ライブアップ等の企画・脚本演出分野の活動は広がっており、五月には和太鼓の佐藤健作IN安芸の宮島 千畳閣への誘いを主催致します。

「自分達の住む土地の魅力を知る機会が少なくなっている」

素盞雄神社の天王祭には毎年各地の人を呼んで神輿振りのすばらしさを紹介しています。3日には谷中の七福神めぐり、4日には向島(隅田川)の七福神めぐり、5日と10日は鎌倉散歩、11日には江戸のお大名屋敷跡をめぐります。



ひげの梶さん歴史探歩会に興味がある方、催行予定表を送りますので通信費140円切手同封の上お申込み下さい。一度探歩会にご参加の後、続けて情報が欲しい方は、受益者負担として切手代3千円(平成22年度分)をお納め下さい。はがき通信で梶本さんの活動やイベントを知ることができます。



〒116-0003
荒川区南千住6-37-7-204
FAX03(3805)9928
梶本晃司